

廃棄うどん、燃料で再生／「循環プロジェクト」

2012/01/14 09:52

[メールで記事を紹介](#)

[印刷する](#)

[一覧へ](#)

廃棄されるうどんから代替燃料のバイオエタノールを製造するプロジェクトに取り組む「うどんまるごと循環コンソーシアム」が立ち上がり、13日、高松市内で第1回総会を開いた。うどん店で廃棄されるうどんから製造したバイオエタノールを、うどん店が燃料として循環利用する仕組みの構築を目指すもので、「うどん県」ならではの環境保全活動が始まる。

同コンソーシアムは、環境NPOや学識経験者、製麺業者ら14人で構成。プロジェクトは「うどんまるごと循環プロジェクト」と名付けた。

計画では、県内のうどん店などで廃棄されたうどんを回収。高松市内の産業機械メーカーが開発した専用のプラントで、バイオエタノールとメタンガスを製造し、回収したうどん店でボイラー燃料として活用する。製造過程で出る残渣(ざんさ)もうどんの原料となる小麦を栽培する際の肥料として使う。

今後は、回収や燃料製造の仕組みを整え、早ければ2月末に燃料生成を開始。肥料の商品化を含め、2013年3月末までに循環システムを確立させる。

この日の第1回総会では「採算性は上向くのか」「燃料と引き換えに、うどん店から料金をもらっては」などの意見があった。今後は技術向上や普及促進などの専門部会を立ち上げ、プロジェクトの仕組みを具体化する。



廃棄うどんを発酵させ、バイオエタノールを製造する装置